



「少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい」(マルコ 5 章 41 節)

日本カトリック難民移住移動者委員会

担当司教 森山 信三

「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出す」(出エ 3・7)。これは、モーセが召し出された時に、燃える柴の間から神がいわれたことばです。

私たちキリスト者の信仰は、この奴隷からの解放、過越の出来事が原点にあります。エジプト王ファラオの支配の下、イスラエルの民に負わされた労働は過酷を極めました(同 1・14 参照)。モーセは解放者として、民をエジプトから連れ出し約束の地を目指すこととなりますが、それは単に場所的な移動だけを意味しません。聖書は、一貫して人間による人間の支配を認めません。神にだけ支配される国、神の国を築くことを求めます。こうして民は、人間の奴隷から神の僕となり、人間ではなく神に仕える者となり、神の子の自由を生きる自立した民となります。この支配する者とされる者の関係、力ある者と弱き者、またそこから生まれる悲劇は現代においてもあらゆる場面に見られます。

「タリタクム日本」のビジョン及びミッションには、「人身取引、現代の奴隷制度、強制労働の撲滅をめざすこと」と「私たちの使命は、教会内外を問わず多くの人々と連携、協力を得て、日本での人身取引を撲滅し、虐げられた人々が、(日常生活の中で)正義に基づく尊厳を取り戻すことにある」と謳われています。

ウクライナやパレスチナの戦争は終わりの見えない状態となっており、どれほど多くの人が過酷な状況にあることでしょう。また 1 億を超えたといわれる世界の難民は、人権どころか最低の生活の保障さえ受けられない状態です。また、日本で働く技能実習生のトラブルも後を絶ちません。

イエスは「タリタ・クム」とおっしゃって少女を立ち上げさせます。イエスは絶望や悲しみ、苦しみに圧倒されている人々に、彼らが失いかけていた希望を取り戻させます。そして自ら起き上がり、進んで行動するように計られます。イエスの活動に倣って、私たちも大きな力のもとに押しつぶされそうな人々に寄り添い、イエスから力を得て、彼らが立ち上がっていくために手を差し伸べる者となりましょう。

タリタクム日本 オンラインセミナー2024
いわゆる「夜職」に従事する女性たちの支援を続けて
～可視化されにくい性的搾取の実態と支援～

タリタクム日本運営委員

山岸 素子

6月1日、タリタクム日本主催によるオンラインセミナー2024が開催され、約250名が参加しました。タリタクム日本のセミナーで、日本の若年女性への性的搾取の問題を取り上げるのは初めてのことです。今回は新宿・歌舞伎町を活動拠点として、「夜職」に従事する女性たちへのアウトリーチや相談、シェルター提供などの支援に取り組んでおられる「NPO 法人レスキュー・ハブ」代表の坂本新さんを講師にお招きし、ご講演いただきました。

坂本さんは、前職の人身取引被害者支援 NPO で働いていた 2018 年から歌舞伎町で風俗や売春などに従事する女性たちへのアウトリーチ支援をスタートし、2020 年に NPO 法人レスキュー・ハブを新たに設立しました。夜の歌舞伎町で週3回、女性たちへの声かけによるアウトリーチを行い、週2回、相談のための立ち寄り所、シェルターを提供し、さらに行政窓口、警察、法的機関、医療機関などとの調整や同行支援も行っています。風俗や売春などに従事する女性を孤立や性的搾取、犯罪被害などから守り、困難を抱える女性を適切な社会資源につなぐ「ハブ」としての役割を担っています。

支援を初めた当初、多くの女性たちが、性的搾取や暴力などの被害にあっても、売春が違法であるために自分は公的な支援の対象外と考え、警察や公的機関に相談できず、孤立していたそうです。コロナ禍の 2020 年以降、歌舞伎町で売春に従事する女性が急増しますが、その背景には、生活困窮、貧困、家庭環境、社会的孤立などがありました。レスキュー・ハブでこれまでに対応してきた相談には、性感染症、妊娠、住まい、就労、生活保護、借金、薬物に関する相談、刑事事件にかかわることもあったそうです。具体的な支援の例としては、別の仕事だと騙されて日本に連れてこられ、渡航費用の返済や、売春を強要された外国人女性への帰国支援の例、家庭内で問題をかかえ、売春で生計を立てるうちに妊娠の発覚が遅れた日本人女性を生活保護につなげ、駆け込み出産の支援をした例をお話いただきました。

また、当事者の現在の生活環境を否定せずに、一歩踏み込んで支援の手を差し伸べる姿勢、時間がかかっても当



事者が環境を変えたいと思うまで、忍耐強くつながりを維持する姿勢も、とても参考になりました。30 年勤めた警備会社から NPO に転職した時の葛藤や、この 4 年間の活動の中で最も多くつぶやいたことばは「主が共にいてくださる」であったことなどを分かち合ってください、多くの参加者の心に深く残るセミナーとなりました。質疑応答も活発に行われ、終了後のアンケートにも大きな反響が寄せられました。タリタクムでは、これからも継続して若年女性の性的搾取の問題をセミナー等で取り上げていきたいと思っています。

第2回タリタクム総会

「人身取引を根絶するために共に歩む～変革に向けた思いやりの行動」

タリタクム日本運営委員

シスター永瀬 あゆみ(サレジオン・シスターズ)

5月18日から24日まで、第2回タリタクム総会がサクロファノのフラテルナ・ドムスで開催されました。71カ国、60のタリタクム・ネットワークから153名の修道者、司祭、信徒、そして様々な国で活動するユースアンバサダーの代表者が参加しました。開催の目的は、経験を共有し、草の根の声に耳を傾けること、さまざまなネットワークをつなぐ国際ネットワークとしてのアイデンティティと多様性を受け入れること、人間関係、ネットワーク、連携を強化すること、新たな現実を踏まえて行動の優先順位を見直すこと、そしてタリタクム15周年を祝うことです。

会場には大陸ごとに展示場所が設けられ、人身取引根絶のために行っている活動などについての説明を聞くことができました。地域によって事情は様々ですが、総会の中で証言してくださった方々の被害の内容は、想像を絶するものでした。それでも差し伸べられた善良な人たちの手によって、今は困難を乗り越え、勇気をもって人身取引根絶のために活動している姿は心に訴えるものがあり、この世界から一日も早くこのような悲劇がなくなるよう、改めて感じました。

各国の代表による活動報告、被害者の証言などに耳を傾け、分かち合いを行った後、私たちはシボス的な方法である「霊における会話」を通して、今後の計画、具体的な決定について話し合い、2025年～2030年の5年間のタリタクム・ネットワークの最終宣言を作成することができました。

最終日には教皇様との出会いの時間が予定されていましたが、健康上の理由から残念ながらお会いすることができませんでした。それでも私たちにメッセージを送ってくださいました。「この憎むべき犯罪行為に真に有効に立ち向かうためには、共同体である必要があります。……それは簡単なことではありませんが、この15年間、皆さんはあらゆる地域でそれが可能であることを示してくださいました。タリタクムは広範囲にわたる世界的なネットワークであると同時に、地元の教会にもしっかりと根付いており、被害者やその家族、危機に瀕しているもともと弱い共同体の人々にとって欠かせない存在となってきました。……人身取引に立ち向かい、根絶するのに不可欠な予防とケアを引き続き行い、多くの重要な関係を築くという歩みを、これからもどうか続けてください。」

この総会に参加して、様々な現状を知ることができました。より一層前進するよう働きかけられましたが、その一方で人身取引の問題は急増しています。この犯罪行為をなくすためには、少数ではなく多くの人の協力が必要です。これまでもネットワークで取り組んできましたが、さらに協力を求めつつ、一人ひとりが大切にされる世界が一日も早く訪れるよう心から願います。



「出前授業を行って」

タリタクム・ユースアンバサダー

西川 里加子



私はこれまで計 3 回、聖ドミニコ学院小学校(2023 年 12 月・仙台市)、サレジアン国際学園中学高等学校(2024 年 1 月・世田谷区)、暁星小学校(2024 年 2 月・千代田区)で出前授業を行いました。

人身取引についてより身近に感じて欲しいと思い、小学生には児童労働、高校生には日本で起きている性的・労働搾取に焦点を当て、授業を行いました。まずは「人身取引」とはどういうものなのか、そしてそれは遠い世界で起きていることではなく、私たちの周

りで実際に起きていて他人事ではないのだと知ってもらうため、クイズ形式や朗読劇などで分かりやすく伝えるように工夫しました。また、高校生の授業では、日本で起きている性的搾取の事例を用い、ケーススタディを行いました。どの学校の生徒さんも、興味を持って真剣に聞いてくださり、特に小学校では挙手が止まらないくらい積極的に発言してくれて、まだ授業をする事に慣れていない私はとても救われました。小学校の授業では、葉書サイズのカードに児童労働で苦しむ世界の子どもたちに向けて、メッセージやイラストを自由に記入してもらう時間を設けたのですが、子どもたちの素直な思いや平和への願い溢れるメッセージに胸を打たれました。

授業の後、メンバーといつも話題になるのは、私たちが人身取引について伝える立場で学校へ出向いているにも関わらず、逆に生徒の皆さんから新しい視点や考えに気づかされるということです。実際に授業をやってみないと気づけなかった部分が多くあり、失敗や反省もありました。しかし、回数を重ねるごと、私たち自身も成長できていることを実感しています。先生方からも、良かった点や改善できる点など具体的なフィードバックをいただくことができたので、これからさらにブラッシュアップしていきたいです。

初めは、授業をするからには何かを教えなければいけないと思っていて、今まで授業を行った経験がない私は、自分にできるのか不安に感じていました。しかし、メンバーと話し合い、準備を重ねる中で、若者による授業の中で求められているのは、先生と生徒という一方的な形で何かを教えることではなく、若者同士で人身取引という問題について一緒に考え、思いを共有することだと気づきました。今まで人身取引という問題に向き合ったことがない若い世代に、まずは少しでも関心を持ってもらい、知ってもらい、広めてもらう。そして、このことについてみんなで一緒に考える。これが、私たちが行う出前授業の大きな目的となりました。一人一人の力は小さなものかもしれませんが、みんなの力を合わせれば人身取引という大きな問題にも立ち向かうことができるということを、今後も出前授業を通して伝えていけたらと思います。



「他人事ではない現実」

日本カトリック難民移住移動者委員会・鹿児島教区担当者
貴島 丈弥神父



はじめまして。鹿児島教区司祭の貴島といいます。2023 年度から紫原小教区の主任をしています。それと同時に難民移住移動者委員会の鹿児島教区担当司祭も任されるようになりました。

長崎管区の委員会が福岡で行われた時に会ったメンバーから、ベトナム人技能実習生たちの日本での現状、九州の状況を聞くことができました。特に鹿児島からも実習生たちからのホットメールが多く届いているということに驚きました。社長や他の日本人からパワハラを受けていたり、不当な扱いを受けていたりしていることを知り、どこか遠いところで起きている他人事だと思っていたことが現実のことに思えてきました。

その後 10 月の東京での会議の時に、鹿児島のある農園で実習生として働いているという2人のベトナム人女性実習生から SOS のメッセージが届いたことを知らされました。その翌月、11 月の終わりごろ、北九州の労働組合ユニオンのメンバーと一緒にその会社に同行させてもらえることになりました。社長の態度次第ではすぐに、その場所から保護することになるかもしれないと聞かされていました。そうなった時は、しばらく教会においても構わないと思っていたので、それをユニオンのメンバーに伝えました。また、もしかしたら2人のベトナムの女性を保護するかもしれないということを小教区のある方に話したら、「私のところで2カ月でも、3カ月でもあずかっても構いませんよ」と言ってくれたので嬉しく、心強く思いました。

そうなることはまさかだろうと思って現場について、社長の奥さんと話をする事になりました。社長はその時は留守とのことでした。その社長夫人の高圧的な態度から、そこにこの2人を置いておくことは危険そうで、できないとユニオンの方たちが判断し、保護することになりました。まさかと思っていたことが現実になりました。それから彼女たちは3カ月ほど、この教会の信者さんの部屋で生活することになりました。カトリックの洗礼を受けているわけではありませんでしたが、熱心なその信者さんが連れ添われ、ほぼ毎日朝にミサにあずかっていました。最初のうちはお互い楽しく生活していたそうですが、交渉がなかなか先に進まないこともあったのか、関係がぎくしゃくすることも多くあったそうです。

最終的に、2人とも新しい職場を見つけ、今は順調に生活しているそうですし、1人は特定技能も受けたいと話していました。たくさん大変なこともありながら、犠牲を払いながら最後まで彼女たちの世話をしてくれたこの信者さんに感謝したいです。鹿児島にもこういうことのできる拠点を構える必要性も感じ、それに向けて動いていきたいとも思いました。

若者の声

「10 周年に向けた尊厳の旅」

タリタクム日本ユースアンバサダー

細井 理世

ナイエリ デル ロシオ ソト オルティズ(ナナ・ソト)



第 10 回「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」にあたり、世界中のタリタクムの若者代表が 2024 年 2 月 3 日から 9 日までバチカンに集い、今年のテーマ「尊厳の旅：耳を傾ける、夢を見る、行動する」のもとに、互いに励まし合い、さまざまな活動を行いました。日本からは二人の若者が代表として参加し、以下のメッセージを伝えています。

* * * * *

ボンジョルノ(こんにちは)。私の旅を皆さんと分かち合えることを嬉しく思います。人身取引との闘いにおける体験や困難、葛藤に耳を傾け、情報を共有するうちに、アフリカのあることわざを思い出しました。「クモの巣をいくつかつなげれば、ライオンを縛り上げることができる」。

タリタクムのアドボカシー活動の一環として、私たちは学校(小学校から高校まで)と、教会の青年グループを訪れ、人身取引に関する授業を行い、若者の意識を高めています。

「夢を見ること」はアドボカシー活動に欠かせません。しかし正直なところ、すぐに結果が出るわけではなく、その難しさを痛感することがしばしばです。私たちは、絶えずより良い世界を夢見て、自分自身を信じ、神への信仰を持ち続けなければなりません。時には、自分のしていることは良いことなのか、意見のあることなのか、自らに問わずにはいられません。人身取引の現実を目の当たりにし、自分が無力で弱いと感じてしまいます。

神はつねに計画しておられます。私は光栄にもここバチカンに来て、自分が独りでないことに気づく機会をいただきました。私たちは独りでなく、仲間と一緒に人身取引に立ち向かっています。エネルギーとパワーと情熱を持ち寄れば、できないことはありません。

人身取引に立ち向かうことはとても大変で、勇気が求められます。人身取引は私たちをあらゆる方法で脅かし、人の権利と尊厳を踏みにじる犯罪だからです。仲間がいなければ、人身取引と闘うことはできません。

私自身、今年でタリタクム・ユースアンバサダー3年目になります。皆さんとともに過ごしたこの一週間のおかげで、人身取引を根絶するために旅を続けるためのパワーを得ることができました。わたしたちは皆、一緒に立ち向かっています。苦しんでいる人、奮闘している人のために祈りましょう。(細井理世)

* * * * *



私はこの会議のおかげで、パートナーシップと希望に満たされ、より良い社会に向けて活動している人が大勢いることに気づくことができました。一人ひとりが自分の場で、それぞれの方法で貢献すれば、大きなプラスな変化をもたらすことができると確信しています。

この一週間、さまざまな出来事がありましたが、その中でも特に印象に残っていることが二つあります。第一に、サンピエトロ

広場でフランシスコ教皇様が、「お告げの祈り」の後で、タリタクムのことに触れてくださったことです。感激のあまり、興奮して喝采を送りました。もう一つは、サンタ・マリア・イン・トラステヴェレ教会堂での「晩の祈り」の後に、フラッシュ・モブを実施したことです。

まず、このフラッシュ・モブがどのようなものであったかを説明します。私たちは「耳を傾ける」「夢を見る」「行動する」というキーワードを表すダンスを披露しながら、そのことばが描かれたプラカードを掲げました。この集いのタイトルの一部が徐々につながり、最後に全体像が表れました。それは、一人ひとりの努力と互いの連携が、いかに人身取引との闘いに貢献しているかを示す、紛れもなく美しく芸術的な方法でした。

続いて、教会内で「晩の祈り」が執り行われました。「火」「大地」「水」「空気」「金属」という要素に焦点を当て、様々な音や象徴によって表現した後、しばし黙想しました。ケニアから来た同僚の一人が、自国の民族衣装を身にまとい、水を象徴するレイン・スティックという道具を持ちながら、中央の通路を歩いてきた時のことを、私は鮮明に覚えています。とてもスピリチュアルな瞬間でした。

そして最後に、「祈りのオンライン・マラソン」で締めくくりました。様々な団体の若者が参加し、人身取引に立ち向かう決意を創造的に表現していました。

この一週間は、紛れもなく感動的で啓発的な時間でした。この集いにより、私たちのグループに活力やアイデアがもたらされ、さらに活動が促されるよう願っています。また、友と呼ぶにふさわしい大勢の素晴らしい人々に出会う機会を与えてくださったことを、神に、そしてタリタクムの主催者に感謝します。私は多くのことを彼らから学びましたし、これからも学び続けるでしょう。（ナナ・ソト）



人身取引問題に取り組む部会(タリタクム日本)のフェイスブック開設のお知らせ



このほど、タリタクム日本は Facebook アカウントを開設いたしました。タリタクム日本によるセミナー等の活動や、人身取引問題への取り組みを随時紹介していきます。

今年5月の総会最終宣言の日本語訳全文と以下の教皇メッセージも掲載され、データもダウンロードできますので、是非、ご覧ください！右の QR コードよりアクセスできます。



教皇フランシスコからタリタクムへのメッセージ(全文)

「共に歩んだ 15 年」

親愛なるタリタクムの兄弟姉妹の皆さん、

第2回タリタクム総会が終わり、皆さんのネットワークが設立 15 周年を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。現代の最も恐ろしく痛ましいものの一つである人身取引を根絶するために、皆さんが個人として、また共に協力しながら行っていることに心から感謝いたします。

人身取引は「組織的」な悪です。ですから、さまざまなレベルで組織的にアプローチすることができますし、またそうすべきです。人身取引は戦争や紛争、気候変動、社会経済的不平等によって増加し、移住を余儀なくされた人々の弱みにつけこみ、特に女性や少女が置かれている不平等な状況を利用します。人身取引は、人間の尊厳を無視して踏みつける「ビジネス」であり、悪徳業者に多大な利益をもたらします。人身取引は常に変化しており、パンデミックの最中もそうであったように、つねに新たな展開を模索しています。しかし、落胆してはなりません。イエス・キリストの霊の力と、大勢の人の献身があれば、人身取引を無くすことができます。

私たちはタリタクムの皆さんがつねに歩んできた足取りをたどらなければなりません。つまり、被害者に寄り添い、彼らの声に耳を傾け、回復を手助けし、人身取引に立ち向かうために共に行動するのです。この憎むべき犯罪行為に真に有効に立ち向かうためには、共同体である必要があります。このことは、この総会のテーマ「人身取引を根絶するために共に歩む～変革に向けた思いやりの行動」によく表れています。

それは簡単なことではありませんが、この 15 年間、皆さんはあらゆる地域でそれが可能であることを示してくださいました。タリタクムは広範囲にわたる世界的なネットワークであると同時に、地元の教会にもしっかりと根付いており、被害者やその家族、危機に瀕しているもっとも弱い共同体の人々にとって欠かせない存在となってきました。そのうえ、皆さんのアピールは、人身取引における責任を、政府と地方自治体に強く求めています。人身取引に立ち向かい、根絶するのに不可欠な予防とケアを引き続き行い、多くの重要な関係を築くという歩みを、これからもどうか続けてください。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、この十数年間、主が皆さんを働かせてくださったすべてのことに、共に主に感謝します。皆さんの文書を注意深く読み、広めます。聖母がいつも皆さんと共にいて、守ってくださいますように。皆さんとその共同体を心から祝福します。これからも私のために祈ってください。ありがとうございます。

教皇フランシスコ

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしくお願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄に☒を入れるか、

通信欄に「タリタクム日本」と明記してください

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話:03-5632-4441 FAX:03-5632-7920 E-mail: jcarm@cbcj.catholic.jp